

『七度半の使い』

昔、石動山には、三百余りの寺社がありました。北陸七ヶ国から、多くの人たちが、参詣に訪れて、たいそう、栄えていたそうです。

そのころ、多根村の人たちは、家業のかたわら、石動山へ行って、いろいろな仕事を手伝ったり、品物を用立てたりしていました。

石動山には、年間を通して、多くの法会や祭事が、催されていました。そのうちには、一月十一日の「吉祝(きっしょう)」という行事がありました。一山の衆徒が、当番院坊に集まって、酒宴をする習わしでした。

毎年、「吉祝」の日には、多根村の人たち、二十数名が、石動山仏蔵坊へ招かれた。この時は、前日の十日の夜に、仏蔵坊から使者が、七回、多根村へ使わされる。そして、八回目の使者と、途中の道で出会うように、頃合いを見計らって、村の人たちは、家を出発することになっていたといひます。

これを、「七度半の使い」と、いったと伝えられています。

(採話 山下 郁雄 「鹿島町史石動山資料」参考)

